

親子二代で成し得た「重量物輸送のチャンピオン」 人生を賭けて次代の成長を期する

八千代市に本社を構える(株)浅野運輸(浅野正幸代表取締役)は、設立当初から鋼材輸送に特化した運送会社として事業を展開。現在は様々な重量物の輸送を手がけており、「重量物輸送のチャンピオン」として、あらゆる重量物に対応できる体制を整えている。

父親である先代社長から経営を引き継いだ浅野正幸社長は、先代社長がゼロから築き上げた同社の経営をより盤石なものとするともに、従業員に「当社で働いてきて良かった」と言われるような運送会社にしていくために、様々な取り組みを進めている。



朱色に黄緑色のラインが入った、人々の注意を惹くカラーリングに彩られた車両を前にする浅野社長

■「無災害」継続に向け指導に注力 経営基盤を一層強化し取引先の信頼に応える

(株)浅野運輸は、八千代市に昭和51年に設立された運送会社である。設立当初、本社営業所の周辺は畑ばかりだったという。しかし、本社営業所のすぐ近くに東葉高速鉄道の八千代中央駅が開業することになり、宅地化が急速に進展。同社は30年ほどの間創業地で営業を続けていたが、早朝や夜間にも車両の出入りがあるため、近隣住民に対する騒音などの問題を危惧し、平成9年に拠点となる配車センターを、八千代中央駅から車で10分ほど離れた八千代市麦丸に設置した。なお、現在は本社営業所を印西市に構えているほか、茨城県鹿嶋市に茨城営業所を設置している。

同社を設立したのは、浅野正幸社長の父親(現:会長)である。父親は県内の運送会社に勤めていたが、独立して同社を設立し、鋼材輸送に特化して事業を展開してきた。先代社長は荷主からのニーズに応えるべく、車両総重量36トンのセミトレーラなど多彩な車両を揃え、「重量物輸送のチャンピオン」として名を轟かせるとともに、超重量物や長尺物、特殊鋼材、精密機械などと輸送品目を拡大してきた。

同社では全従業員を対象に、安全会議を毎月1回実施している。安全会議では、同社保有の全車に搭載しているドライブレコーダーで撮影されたヒヤリハット映像を全員で視聴し、同じような事故を防ぐためにはどのようにすればいいかを考えてもらう。安全教育の場面でリアルな動画を活用することで、ドライバーに事故防止への意識を強くもってもらおうとともに、教育効果向上にも繋がっている。また、同業他社における労働災害事例や荷物事故事例なども安全会議を通じて情報共有している。

安全会議には会長も出席し、会の冒頭に「スピードは控えめに、カーブはゆっくり、眠くなったら寝る」という3原則を宣言し、ドライバーに指導している。同社では夜間運行も多いが、夜間に重量物を積載したトレーラを運転しているドライバーが居眠りをしてしまうことで大事故に繋がってしまう。会長の教えが同社のドライバーにしっかりと浸透していることもあり、同社では大き

な事故は発生していないという。

「当社の責務は、発荷主からお預かりした荷物を時間通りに着荷主にお届けすることです。輸送中に事故を引き起こしてしまうと、荷物を時間通りにお届けできなくなってしまいます。安全意識を高め、事故を未然に防いでいくことが、お客様に対する強いアピールとなるのです。また、当社では重量物輸送に対応した多彩な車両を揃えておりますが、これも荷主の期待に応えるための取り組みのひとつです。『重量物輸送のチャンピオン』として、いざという時にも荷主からのご要望に応えることのできる運送会社であることを目指して、当社では輸送サービス向上に取り組み続けてきました」(浅野社長)

さて、様々な重量物の輸送を担う同社では、「無事故」の徹底はもちろんのこと、「無災害」の実現に向けた安全指導も展開している。同社では非常に重い鋼板コイルの輸送も手がけているが、鋼板コイルをクレーンで吊り上げている時には絶対に吊荷の下には入らないよう、ドライバーに指導を行っている。もしも吊り上げている鋼板コイルが落下し、そこに人がいたら深刻な事態となってしまいかねない。同社では、重量物輸送は労災と隣り合わせであることを強く意識させながら、日々ドライバーに対して厳しく指導を行っている。

「労災は、従業員の身体や命に深刻なダメージを与えかねません。経営者としても、ひとたび労災事故を発生させることで、従業員のご家族に合わせる顔が無くなってしまいます。当社の従業員が労災による被害には決して遭わせないと考え、当社では無災害への取り組みも強化しています」(同)

ところで、鋼材輸送に当たっている同社のドライバーでは、鉄鋼会社や製鉄所など荷主先での荷待ち時間が長いことが大きな問題になっている。鋼材の積み卸し作業は手作業ではできないため、



浅野 正幸
代表取締役



広幅鋼板輸送に使われる傾斜荷台付トレーラなど、同社では様々な大型トレーラを保有する



巨大な鋼管など、長い積荷を積載する同社の大型ポールトレーラ



浅野社長は事務職員やドライバーたちに積極的に声をかけ、コミュニケーション深化を図っている

クレーンを使う必要があるが、一度に多くのトレーラが荷主先に集まってしまうとクレーン待ちとなるため、なかなか積み卸しができないという。

鋼材物流における「物流の2024年問題」への対応を進めている（一社）日本鉄鋼連盟では、荷待ち・荷役時間の削減などトラック受渡条件におけるルールの再徹底を発荷主（鉄鋼メーカー）や着荷主（鉄鋼ユーザー）に呼びかけ、物流網の維持・強化に取り組んでいる。こうしたこともあり、発荷主先での荷待ち時間は減少に向かいつつある。ただ、着荷主には町の鉄工場など比較的規模の小さな企業もあり、荷卸し設備などが十分でないところもあることから、着荷主先での荷卸し待ちは依然として減っていないという。

「荷待ち時間の改善に関しては、徐々に理解が進みつつある荷主も出始めている一方で、まだ理解が進んでいない荷主も少なくありません。物流に対する荷主の理解は運賃・料金交渉の場面においても色濃く反映され、大手鉄鋼メーカーを中心に運賃・料金交渉が進みつつある一方で、町の鉄工場などではまだまだ運賃引上げは難しい状況です」（同）

さて、同社では60歳定年制を採用しているが、現在70歳以上の従業員が4人在籍している。これらの従業員は、かつてはドライバーとして勤務していたが、定年を機に車両の整備係や点呼要員、また誘導車ドライバーとなり、引き続き同社で働いているという。

「当社では、従業員が長く勤められるような会社にしていきたいと考えています。高齢となった先輩の元気な動きぶりを目にする若いドライバーたちにも、『自分も先輩のように、この会社で長く働き続けたい』と感じてもらいながら、仕事に励んでもらいたいです」（同）

同社は、浅野社長の父親である会長が1人で始めた会社である。浅野社長は、大学を卒業してすぐに同社に入社し、運送業界での経験を積み始めていったが、浅野社長は同社をゼロから立ち上げた父親を心底尊敬しているという。浅野社長は毎日1時間程度、

現在79歳となった会長とコミュニケーションを欠かさず取るようにするなど、親子間の仲は非常に良好だという。

浅野社長が同社に入社してから20年ほどが過ぎたある日、会長から浅野社長に対して社長を継ぐよう打診があった。会長はもとも「当社の経営を若い者に任せ、新しい考え方でこの会社を引っ張ってもらいたい」との考えがあったという。それ以前から浅野社長は会長から同社の株式を引き継いでおり、実務面では代表者として会社を取り仕切っていたが、平成23年、取引先にも浅野社長が広く知られるようになったタイミングで社長交代となった。

社長就任以降も、浅野社長は事務職員たちと同じフロアに自席を構えており、事務職員やドライバーたちに積極的に声をかけるなど、コミュニケーション深化に取り組んでいる。

現在55歳の浅野社長の今後の夢は、会社の業容を今よりも少し拡大させて、次の世代に会社を引き継ぐことであるという。

「燃料価格や人件費、車両費などが急騰する中、当社を含めた多くの中小運送会社の経営は現在極めて厳しい状況に陥っています。こうした中でも、当社としてはしっかりととした内容の決算書が作れる運送会社にしていかねばならないと考えています。決算書は、事業の経営実態を把握するために非常に重要なものです。自社の経営実態がしっかりと把握できなければ、自社の経営改善に向けた一歩を踏み出すことができません。また、決算書は銀行から融資を受ける上でも必要なものとなります。経営者としては、経営的に厳しくなって金融機関に頭を下げてお金を借りに行くような会社ではなく、決算書を通して当社の経営実態をご評価いただき、金融機関の側からお金を貸したいと思われるような企業にしていかねばなりません。父親がゼロから築き上げ、現在の姿へと成長を遂げてきた当社を、私の代で傾かせようということがあってはならないと強く感じています。当社の最高責任者として、自分の人生を賭けてこの会社を守り抜き、お付き合いのある皆様方から引き続き付き合いたいと思っていただけるような企業にしていった上で、次代を担う将来の経営者にバトンを引き継ぎたいと考えています」（同）

ホットにゆーす

■多くの人との繋がりを生み出す ゴルフは「究極の名刺代わり」に

浅野社長は父親に教えられ、15歳でゴルフを開始。5度のホールイン・ワンの実績をもつ父親の指導もあり、千葉県内在住・在勤のアマチュアゴルファーによるゴルフナンバーワン決定戦「千葉県アマチュアゴルフ選手権」で4位入賞を果たすまでに、浅野社長は腕を上げた。現在も高いスコアを叩き出す浅野社長は、自分のスイングで多くの人々の記憶に残すことのできる「究極の名刺代わり」として、ゴルフをプレーしている。

「鉄鋼業界にはゴルフ好きな方も多いため、多くの人との繋がりがもできました。ゴルフ上達のコツは、全力でクラブを振らずに8掛けで振ること、そして短期集中で練習を積み重ねることです」（同）



浅野社長は42歳の時に、千葉県アマチュアゴルフ選手権で4位入賞を果たしている

企業プロフィール

株式会社 浅野運輸

代表取締役 浅野 正幸

本店 千葉県八千代市ゆりのき3-5-1

従業員 77人（うちドライバー68人）

台数 79台